

CAMPUS NOW

2018
早春号

早稲田大学広報
通号226号

■■■■■■■■■■ 特 集 ■■■■■■■■■■

学生の未来を拓く

早稲田の奨学金

- 全ての学生に「諦めない」学生生活を
- タイプ別学内奨学金紹介
- 奨学金 A to Z
- 支援を活かす奨学生たち

- 12 Rising Star
大学院創造理工学研究科 加藤 陽
株式会社CINRA 野村由芽
- 14 研究最前線
人間科学学術院教授
熊野宏昭
- 16 第二世紀へのメッセージ
メルセデス・ベンツ日本株式会社
代表取締役社長 兼 最高経営役員 (CEO)
上野金太郎
- 18 進化する大学
WASEDA NEO



2018年3月20日、早稲田が持つ個性や魅力を伝える

「早稲田大学歴史館」開館

早稲田大学ではキャンパスそのものをミュージアムにすることを目標の一つにしており、その具現化として、既存の坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館等に加え、2018年3月20日、「早稲田大学歴史館」を、早稲田キャンパス1号館1階に開館します。

歴史館では、本学の歴史（過去・現在・未来）に関する資料や情報を、単

なる通史の平板な陳列ではなく、来館者がそれぞれの関心に応じて新たな発見ができるよう、多様な切り口で提示します。さまざまなデジタル媒体等も活用しつつ展示内容を随時更新し、テーマ展示や企画展示等も組み合わせ、何度も訪れたくなる知的刺激に満ちた施設となるように工夫していきます。

館内は、常設展示エリア、企画展示ルーム、映像プログラムを視聴できるシアタールーム、早稲田の歴史等を調べることができるリサーチルームにより構成されます。また、早稲田グッズショップやカフェを併設し、いつでも立ち寄って楽しめるミュージアムを目指していく予定です。

主な館内エリア

「久遠の理想」エリア (常設展示)

▶ 本学創立の功労者たちの生涯や理想を、ゆかりの品々とともにたどりながら、時代との格闘を通じて生み出された建学の精神と早稲田の原点を伝えます。



「久遠の理想」エリア
(イメージ)

「聳ゆる薨」エリア (常設展示)

◀ 本学の誇る傑出した校友や関係者の多彩な人物像を、政治、経済、学術、文学、芸能、スポーツなど定期的に分野を入れ替えながら、幅広く紹介します。



「聳ゆる薨」エリア
(イメージ)

「進取の精神」エリア (常設展示)

創立以来常に改革への挑戦を続ける現在進行形のWASEDAを、キャンパスの変遷やグローバル化の進展など、多様な切り口でわかりやすく表現します。

早稲田大学×バーミンガム大学 主催

シンポジウム「蜷川シェイクスピアをめぐって」

2017年10月6日、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館と、英国・バーミンガム大学シェイクスピア研究所の主催によって、在英国日本国大使館にてシンポジウム「蜷川シェイクスピアをめぐって」を開催しました。このシンポジウムは、蜷川幸雄氏の代表作「NINAGAWA・マクベス」のバービカン劇場上演を機に、蜷川幸雄演出による日本発のシェイクスピア上演をめぐって行われ、開催にあたって国際部およびスーパーグローバル大学創成支援国際日本学研究所、演劇映像学連携研究拠点が共催機関として協力しています。

シンポジウムでは、シェイクスピア研究を牽引する世界的な権威であるマイケル・ドブソン教授、英国演劇界を代表する劇評家のマイケル・ビリントン氏、来日公演でも話題を呼んだ新進気鋭の演出家フィリップ・グリーン氏、バーミンガム大学大学院博士候補生のロザリンド・フィールディング氏が講話。続いて演劇博物館の演劇映像学連携研究拠点の柴田康太郎研究助手より、演劇博物館の概要と展示・研究活動について紹介されたほか、バービカン劇場で上演中の歌舞伎女形・中村京蔵氏を招き、演劇博物館副館長である児玉竜一文学学術院教授との対談「歌舞伎女形とシェイクスピア」も行われました。

その他、森田典正国際学術院教授、児玉教授、本山哲人法学学術院教授、島岡未来子研究戦略センター准教授、梅宮悠文学学術院助教、飛田勘文演劇博物館助手、柴田研究助手ら一行は、バーミンガム大学ウィットビー副学長



歌舞伎俳優・中村京蔵氏



(左) マイケル・ドブソン教授
(右) マイケル・ビリントン氏



(左) フィリップ・グリーン氏
(右) バーミンガム大学大学院
ロザリンド・フィールディング氏



シェイクスピア
研究所での講演。
左から
児玉竜一教授、
梅宮悠助教、
本山哲人教授



(左) 歌舞伎俳優・中村京蔵氏
(右) 駐英特命全權大使・鶴岡公二氏

との懇談、シェイクスピア・グローブ座や研究支援団体等を訪問。ウィットビー副学長は、「2016年以来、2大学間の多くの分野で活発な交流が実現しており、両大学とも同じ印象を持っていると認識している。その中でもシェイク

スピア分野が最もアクティブに交流できている」と述べました。今後、バーミンガム大学と本学におけるシェイクスピア研究、および他分野の共同研究活動のさらなる発展が期待されます。

Feature

学生の未来を拓く

早稲田の 奨学金

学生を経済面から支援する奨学金は、
進学だけでなく、留学や起業など学生の
挑戦を後押しする大きな力となります。

早稲田大学が学内に設置している奨学金は、
全てが返済不要の給付型で、学生の状況に合わせて
独自のメニューを多数そろえています。
特集では学内奨学金の豊富なメニューを紹介し、
学生の意欲に応える大学の姿を紹介します。

学内奨学金の KEYWORD

約150種類

学費の免除や留学渡航
費用の援助など、学部生
から大学院生まで、目的
に合わせた多様な奨学
金を用意されています。

学内奨学金は全て、返済不要の給付
型。返済の負担を考えなくてよいので、
勉学に集中することができます。

返済
不要

年間予算・給付総額

37億円
(2016年度)

年間予算・給付総額は国内
トップクラス。学生生活を力
強く支えています。



全ての学生に “諦めない” 学生生活を

早稲田大学 理事（学生、附属・系属校担当）
教育・総合科学学術院
村上公一教授

早稲田大学の奨学金（以下、「学内奨学金」）の歴史は長く、少なくとも大正時代には学内奨学金が存在していました。今日に至るまで、国や学生の状況に合わせて柔軟に制度を更新しながら、意欲ある学生や経済的に困難な学生を支援してきました。

学内奨学金の大きな特徴といえるのは、国や他大学に先駆けて進化を続けていることです。例えば近年、返済が必要な貸与型奨学金の問題点を取り沙汰され、政府も返済不要の給付型奨学金を拡充する方針を打ち出しました。本学の奨学金にも、以前は貸与型がありましたが、2008年には全ての学内奨学金が給付型に切り替わっています。また、受験前に学内奨学金を予約できる「めざせ！都の西北奨学金」や、児童養護施設や養育里親家庭等で育った方を対象とした「紺碧の空奨学金」など、新しい独自の学内奨学金も生まれています。経済的困難に対する支援はもちろん、アスリートや成績優秀者など

学生の頑張りに対する奨励、留学や起業などのチャレンジに対する支援と、現在約150種類の多様な形態の学内奨学金が用意されています。

多様な学内奨学金が用意できるのは、多数の支援者の存在があるからです。「後輩を支援したい」「早稲田大学の意欲ある学生を支援したい」という思いを持つ校友や篤志家が多いことは本学の強みであり、個人単位の寄付による学内奨学金は毎年のように新設されています。いただいた奨学資金が学生へ支給され、学生は本学で思う存分学び、社会に出て活躍し、今度は後輩の支援者になる。そのような支援の循環を確立させるため、相談体制の整備、奨学金受給学生と支援者との交流に加え、今後は受給学生同士が卒業後も交流できる場を設けたいと思います。

国内でもトップクラスの充実した奨学金制度を持つ本学ですが、学内奨学金だけで学生生活の全てをカバーするのは現実的ではありません。学内奨学金は、

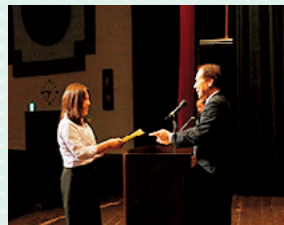
他の公的な支援を補完するのが理想の姿であり、日本学生支援機構や自治体、民間の奨学金と組み合わせることで、より充実した支援が受けられます。さらに、学内での経済支援という面では、学内アルバイトのスチューデント・ジョブも支援のひとつです。2016年度は、授業の合間等の時間を利用して、約8,000人の学生が教務補助、事務補助などに従事しました。学内外の奨学金を受給しつつ学内で働くことで、学費と生活費を賄うことができれば、勉学・課外活動ともに充実した学生生活を送ることができるでしょう。奨学金とスチューデント・ジョブは、本学の経済支援の両輪として、どちらも充実を図っていきます。

学生が多様な経験を積むためには、どうしても資金が必要な場面があります。本学は、受験生や在学生がどんな立場にあっても学生生活を“諦めない”ための支援を第一に考え、多様な支援メニューで学生の意欲に応え続けていきます。

62万人の先輩が学生を支援「早稲田大学校友会」

早稲田大学の同窓会組織である「早稲田大学校友会」。すべての卒業生（校友）が会員となり、校友の参加によって運営されています。校友会奨学金の給付や「100円朝食」提供協力、全学生を対象にした「校友会支援講座」の実施、卒業生との交流イベント開催などで、学生生活や就職活動を支援しています。

校友会は年間予算の多くを奨学金・母校支援費として大学に寄付しています（2016年度の支援総額：2億5,528万円）。さらに、大学公式クレジットカードの「早稲田カード」は、カードの利用金額に応じて奨学資金を大学に寄付しています。これまでの奨学金累計金額は18億9,093万6,778円（2017年10月現在）に上ります。



大隈記念講堂で開催される校友会奨学生証授与式。奨学生代表が校友に向けて謝辞を述べる



校友会費納入者にのむとに届く『早稲田学報』では、毎号奨学生の声も紹介されている



これらは、めざせ！都の西北奨学金、校友会給付奨学金などの資金となり、毎年約1,100人の学生に奨学金として給付されています。

<http://www.wasedaalumni.jp/>

タイプ別 学内奨学金紹介

学内には、受験生から研究科の学生まで幅広い種類の給付型奨学金が用意されています。
約150種類のうち、一部をピックアップしてタイプ別に紹介します。

入試前予約採用型給付奨学金

受験生を対象に、入学後の経済的支援を確約する奨学金

「めざせ！都の西北奨学金」

首都圏以外から早稲田大学への入学を目指す受験生を対象とした奨学金。入学試験の出願前または出願期間中に申し込み、書類選考により奨学金採用候補者として認定された場合、入学後の奨学金を予約できます（入学試験に合格・入学することで正式採用）。一般入試・センター利用入試、指定校推薦入試のほか、2018年度より新思考入試、自己推薦入試、スポーツ自己推薦入試、スポーツ推薦入試、公募制学校推薦入試、AO入試の受験生にまで拡大されました。

- 支給対象**
- ・首都圏（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）以外の国内高等学校等の出身者、もしくは在校生
 - ・上記のうち、
 - ・一般入学試験
 - ・大学入試センター試験利用入学試験
 - ・自己推薦入学試験
 - ・スポーツ自己推薦入学試験
 - ・スポーツ推薦入学試験
 - ・新思考入学試験（地域連携型および北九州地域連携型推薦入試）
 - ・公募制学校推薦入学試験（FACT選抜）
 - ・トップアスリート入試を除く総合選抜型（AO）の入学試験
- のいずれかを受験する受験生で、経済的支援の必要な者

支給額 半期（春学期）分授業料相当額を4年間継続
※家計状況、学業成績による継続判定あり

募集人数 約1,200名

- POINT**
- ・地方の受験生を支援
 - ・入学前に支援を確約

Others

- ・紺碧の空奨学金
- ・小野梓記念奨学金（新入生予約採用型）

経済支援型奨学金

経済的困難を抱える在学生を対象に、経済的支援を行う奨学金

「小野梓記念奨学金（在学生採用型）」

本学の創立当初の功労者である小野梓を記念し、修学上、特に困難な学生を援助することを目的とします。

- 支給対象** 全学部1～4年生、研究科、附属校
- 支給額** 学 部：400,000円
研究科：400,000円
附属校：300,000円
- 募集人数** 学 部：360名
研究科：188名
附属校：合計32名
- POINT**
- ・家計状況を重視
 - ・全学部、学年、研究科、附属校対象

「校友会給付奨学金」

早稲田大学校友会の寄付からなる奨学金で、家計困窮度ならびに学業成績を総合的に勘案し採用します。採用者は校友会主催行事にボランティアとして協力参加し、校友との交流を深めるほか、奨学生証授与式に出席します。

- 支給対象** 全学部1～4年生、研究科
附属校、芸術学校
- 支給額** 学 部：400,000円
研究科：400,000円
附属校：300,000円
芸術学校：150,000円
- 募集人数** 学 部：35名
研究科：35名
附属校、芸術学校：若干名
- POINT**
- ・校友会とつながりが持てる
 - ・全学部、学年、研究科、附属校、芸術学校対象

Others

- ・教職員給付奨学金
- ・早大生協給付奨学金
- ・津田左右吉奨学金
- ・山田泰吉・あさ奨学金
- ・照田喜美枝
大学院進学支援奨学金

等

Introduction

報奨型奨学金

学生の学業などの成績を基に、さらなる活躍を奨励する奨学金

「大隈記念奨学金」

本学の創立者大隈重信を記念し、建学の精神を顕揚し、人材の育成に資することを目的とする奨学金で、学業成績を重視して選考します。

支給対象 全学部1～4年生、研究科、両高等学院、高等学院中学部

支給額 学部：400,000円
研究科：400,000円
両高等学院：400,000円
高等学院中学部：100,000円

募集人数 学部：104名以内
研究科：45名以内
両高等学院、高等学院中学部：若干名

POINT • 学業成績優秀者に支給
• 全学部、学年、研究科、両高等学院、高等学院中学部対象
• 2018年度から中学部を追加

「鈴木啓太起業支援奨学金」

本学校友でインテグラル・インベストメント株式会社代表取締役である鈴木啓太氏の寄付からなる奨学金で、起業を志す学生を支援することを目的としています。

支給対象 全学年の1～4年生、研究科

支給額 年額600,000円

募集人数 毎年1～2名

POINT • 在学中に起業を志す者で、1年以内に起業する予定のある者、または既に起業している者を支援

Others

- 大川功一般奨学金
- サンゲツ奨学金

等

留学支援奨学金

留学に挑戦する学生に対し、経済的支援を行う奨学金

「早稲田の栄光奨学金」

経済的な理由で留学への参加が困難である学生を対象に、留学出願前に奨学金の選考・結果発表を行う奨学金。奨学金を見込んだ留学費用の資金計画を可能にすることによって、より多くの学生に留学を実現してもらうことを目的としています。

支給対象

- 対象となる留学プログラムで半期以上留学する学生のうち、経済的な支援を必要とし、学業成績が優秀な者
- 「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」に応募する者

支給額 半期留学：500,000円
1年以上の留学：1,100,000円

募集人数 春募集・秋募集で計最大22名

POINT • 全学生への留学を奨励
• 留学出願前に支援を確約

「WSCメンバーズ基金グローバル人材育成奨学金」

大学全体への寄付制度である「WASEDAサポーターズ倶楽部（WSC）」への寄付金を基に創設された「WSCメンバーズ基金」を通じて、グローバルリーダー育成に関する学生支援策の一環として設立された奨学金です。海外へ留学する成績優秀な学部学生を支援します。

支給対象

留学センターが提供する派遣留学プログラム（ダブルディグリープログラム、交換留学プログラム）により海外の大学へ留学する学部学生の中で特に成績優秀な者

支給額 年額1,000,000円

募集人数 最大10名

POINT • 全ての国籍の学生が対象
• 「WASEDAサポーターズ倶楽部」への多くの方からの寄付金を基にした奨学金

Others

- 校友会海外留学派遣奨学金
- ハワード・ハギヤ奨学金
- 千田吉郎記念海外留学奨学金
- 荒井孝晋海外留学奨学金基金
- 高城幹記念海外奨学金
- 早稲田大学学生交流奨学金 等

03

奨学金 A to Z

奨学金を利用する方法をご紹介します。

奨学金の申請フロー（在校生の場合）

奨学金の申請・受給は、一定のスケジュールのもとで進められています。登録期間は春と夏（学部生のみ）にありますが、基本的には春の登録期間で申請します。期日を過ぎてしまうと申請することができないため、注意しましょう。

また、奨学金によっては、独自に出願手続きが必要なものもあります。詳しくは「奨学金情報Challenge」でチェックしてください。

海外留学を対象とした奨学金

海外留学を予定している学生を対象に、給付型の学内外の奨学金をはじめ、貸与型の奨学金もあります。詳しくは留学センターにお問い合わせください。

STEP
1

春の登録期間

2月1日
～
3月15日

- Web申請入力
(My Waseda)
- 必要書類の提出
上記2つの手続が必要です

日本学生支援機構奨学金

4月2日～25日

- ① 所属学部事務所で「Challenge別冊」を受け取り、
- ② 日本学生支援機構のスカラネット入力と
- ③ 必要書類を提出

奨学金 Q&A 奨学金にまつわるさまざまな疑問にお答えします。

Q 日本学生支援機構、学内奨学金などさまざまな種類がありますが、どのように選べば良いのでしょうか？

A 奨学金には大きく分けて給付型と貸与型があります。学内奨学金は全て給付型で、日本学生支援機構の奨学金は貸与型です。後者は無利子の第一種と有利子の第二種があり、単位取得状況と家計基準が日本学生支援機構の定める基準を下回る場合は、奨学金の貸与を受けることができます。学内奨学金は選考があり応募者全員が受け取れるわけではないので、確実に奨学金を受け取りたい人は日本学生支援機構の奨学金とあわせて申請することをお奨めします。

Q 2年生以降でも奨学金を申請できますか。

A 可能です。春の登録期間に申請しましょう。学内奨学金は年度ごとの給付のため、毎年申請手続きが必要です。

Q 経済状況に関わらず、申請できる奨学金はありますか。

Q 学内奨学金はどのような方法で選考されているのでしょうか。

A まず奨学課で、世帯の収入、家族状況（就学中の兄弟がいるかどうかなど）、通学形態など、さまざまな条件を考慮して家計状況を把握し、その後、所属学部で成績等を加味し、選考します。

お話を聞いた人たち

学生部奨学課

榎本 明功（左）、上田 紗菜恵（右）



Q 家計に急変があった時点で、奨学金を申請することはできますか。

A 家計急変の場合、その年度の奨学金登録をしていなくても、日本学生支援機構の緊急・応急採用を受給することができます。また、給付型の学内奨学金にも、家計急変を対象とした早稲田大学緊急奨学金があります。そのほかにもいくつかの選択肢がありますので、その際は早急に奨学課に相談に来てください。

STEP 2

奨学金 登録結果の確認

4月18日
～
25日

- ① 奨学金登録票
コピーの
受け取り
- ② My Waseda
での確認

日本学生支援機構奨学金

6月1日 (予定) 推薦者発表	7月11日 (予定) 奨学金支給開始	7月下旬 (予定) 採用者発表・ 採用手続き	9月下旬 (予定) 返還誓約書提出
--------------------	-----------------------	------------------------------	----------------------

学内奨学金

5月中旬～下旬頃 選考 (面接等)	7月中旬頃 採用者発表	7月末 奨学金支給
----------------------	----------------	--------------

民間・地方公共団体奨学金

団体により日程が異なります



A

学内奨学金の中には、経済要件が緩やかなものもあります。代表的なものに、大隈記念奨学金 (給付型) があり、学業成績を重視して選考しています。

春に申請した奨学金は、いつから受け取ることができますか。

7月以降です。日本学生支援機構の奨学金は、7月に4～6月分もまとめて支給されます。学内奨学金は原則7月末に支給となります。そのため、それまでの学費、生活費等は用意しておく必要があります。

TOPICS 入学前に不安を解消する、受験生を対象とした予約型奨学金を拡充

本学では、入学が決まる前に経済的な不安を解消し、受験してもらうために、予約型奨学金を充実させています。

首都圏以外の国内高等学校出身者で学業成績が優秀であるにも関わらず家計の事情で進学を断念せざるを得ない受験生を対象とした「めざせ! 都の西北奨学金」は、これまでは対象の入試形態を一般入試・センター利用入試、指定校推薦入試に限定していましたが、2018年度入学者より受験生の対象を広げ、より多くの高校生にチャンスが与えられます。

また、2017年度入学者より、社会的養護下にある子どもが経済的理由により進学を断念することのないよう、「紺碧の空奨学金」の募集を開始しました。1年目は、

児童養護施設に入所している者、または退所して2年以内の者を対象としていましたが、2018年度の募集から、小規模居住型児童養育事業 (ファミリーホーム) に入所している者、または退所して2年以内の者、養育里親家庭への委託措置を受けている人、または委託措置が解除されて2年以内の者まで対象を拡大しました。入学検定料をはじめ、在学中に必要な費用は全て免除し、さらに月額9万円を給付します。厚生労働省の調査 (2014年度) によると施設の子どもの大学・短大進学率は11.1%で、卒業できるのはさらにその1割。環境を理由に子どもたちが夢を諦めることのないように支援しています。

04

支援を活かす奨学生たち

奨学金の支援を活用して有意義な学生生活を送る学生や、その後社会に出て活躍する校友に、奨学金の大切さについてお聞きました。



文学部

土方くるみさん

(2014年入学)

受給した奨学金

- ・大隈記念奨学金
- ・山田泰吉・あさ奨学金
- ・日本学生支援機構奨学金

早稲田大学で過ごしたかけがえのない4年間

当初、家族が学費の負担がよりかからない国立大学に進学してほしいと希望していましたが、学べる内容と校風から早稲田に行きたいと思った私は、親に相談の上、希望通り早稲田大学に進学しました。教職課程も取っていたので、アルバイトをする時間がなかなか取れませんでした。日本学生支援機構奨学金と学内奨学金をあわせて、学費と生活費を調達したことで、勉強と研究に集中することができま



教育学部

姫野智子さん

(1999年卒業)

受給した奨学金

- ・大隈記念奨学金

自分を鼓舞するために大隈記念奨学金に挑戦

教育学部の数学科に入学したばかりの私は、大学数学の難易度の高さに面食らい、学ぶ目的を見失いかけていました。そんなとき、たまたま掲示板に貼り出されていた大隈記念奨学金の受給者の名前に知人の名前を見つけ、雲の上の存在だと思っていた奨学金の存在が急に身近なものになったのです。「私も頑張れば受給者になれるかも!」と思う気持ちを数学に向き合うモチベーションにして、1年間とことん勉強しました。



国際教養学部

キム・ヒョンテさん

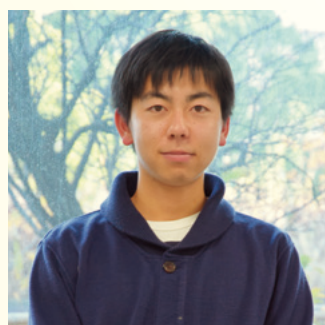
(2012年入学)

受給した奨学金

- ・公認会計士稲門会奨学金
- ・私費外国人留学生授業料減免奨学金
- ・学習奨励費

奨学金とアルバイトでやり遂げた留学生活

早稲田で学ぶ留学生は、ほぼ全員が奨学金を申請しています。私は学費と生活費を全て自分で賄っているため、アルバイトにも多くの時間を費やしていました。しかし、4年生で就職活動が始まると時間が足らず、奨学金が生活の助けになりました。勉強とアルバイトの両立は楽ではありませんでしたが、大変な状況も自分の力で乗り越えてきた経験から自信が生まれました。実は3年生の時、奨学金の申請を



先進理工学部

権田真太郎さん

(2014年入学)

受給した奨学金

- ・高木幹記念海外留学奨学金
- ・日本学生支援機構奨学金

奨学金で実現した留学で将来の展望が広がった

高額な留学費用を稼ぐためにアルバイト漬けの毎日を送っていた私は、勉強の時間が減り成績が悪化して、追い詰められていました。そんなとき、あまり期待せずに申請していた給付型の奨学金を受給できることになり、その結果アルバイトを減らし、勉強に集中できるようになりました。理系学部はカリキュラム上、4年で卒業することの両立が難しいことから、留学を躊躇する人が少なくありません。しかし

Message

した。本を買う余裕も生まれ、旅行に行くこともでき、充実した学生生活を過ごすことができました。卒業後、4月からは夢だった高校教師として教壇に立つことが決まっています。教え子たちには大学の情報だけでなく奨学金の支援についても情報を提供し、将来の選択肢を広げるお手伝いをしたいと思っています。

その結果、数学の奥深さや楽しさを知ることとなり、受給者にも選ばれ、大きな自信を身に付けることができました。この、「最初苦手だと思ったことを、好き・得意にできた」経験は就職活動の面接時にも役立ち、その後の人生にも良い影響を与えています。学生に自信と誇りを与える成績優秀者を対象とした奨学金は、大きな意義があると考えています。

失念してしまったのですが、有給のインターンに応募して、貴重な経験と生活費を得ることができました。世界中で働きたいという希望と合致したので、その会社で4月から正社員として働きます。親の支援がなくても、少しの工夫と努力で夢は叶うと思っています。

1年の留学生活で得た経験は、学問への興味を高め、私の人生に大きな糧を与えてくれました。今は、海外の大学院も視野に入れて、勉強に励むとともに奨学金の情報収集も始めています。人生の可能性を広げてくれた奨学金に感謝しています。

✉ 寄付者からのメッセージ

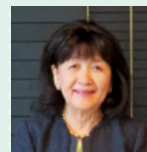
奨学金寄付者の皆様から、学生支援にかける思いを語っていただきました。

好きな研究に専念できる環境を

照田喜美枝建築学奨学金

照田喜美枝大学院進学支援奨学金

照田喜美枝さん



奨学金設立のきっかけとなったのは、私の父である故・照田一二三が墨田区に造営した自宅（照田家住宅）が2008年、創造理工学部建築学科の中川武研究室の協力で、国の登録有形文化財の指定を受けたことでした。この時、日本の近代都市住居の保存と活用を研究する大学院生を支援したいと強く思い、「照田喜美枝建築学奨学金」を設立したのです。その後、総長をはじめ、教職員・学生の皆様とのお付き合いを深める中で、より多くの学部生が経済的な心配なく大学院に進学し、好きな研究に専念できるように支援したいと考え、2017年、新たに「照田喜美枝大学院進学支援奨学金」を創設しました。

学生の皆様には、在学中は勉強を存分に、卒業後には国内外で世のため人のために活躍していただくことを期待しています。皆様の夢を実現するために奨学金が少しでも役立てられれば、これほどうれしいことはありません。

皆様のご活躍を心から応援しています。頑張ってください！

永く勤務した 機械工学科への気持ち

オリーブ・佐々木洋子奨学金

佐々木洋子さん



私は約40年間本学職員をつとめました。そのうち14年間、理工学部機械工学科連絡事務室に勤務しました。先生方、学生の皆様にとっても良くしていただき、今でも卒業生との交流が続いています。その恩返しになればという思いで寄付をし、この奨学金を設立しました。

この奨学金の特色は、当時の学生には私の名前よりニックネームだった“オリーブ”の方がわかりやすいということで「オリーブ・佐々木洋子奨学金」とその名を冠した点、また奨学金設置後に卒業生、先生方からもご寄付をいただいている点です。OB・OGの会である早稲田大学機友会のニュースレターに投稿し、卒業生に声をかけられました。その結果、実際に多くの皆様からご支援いただき、おかげさまで2017年度からはさらに奨学金給付額を増やすことができました。学生と卒業生の絆を結び、学生を支援する輪がどんどん広がる——この奨学金がそのきっかけになったら幸いです。

起業をキャリアの選択肢のひとつに

鈴木啓太起業支援奨学金

鈴木啓太さん

在学中に起業を志す学生の皆様に対して、少しでも学業および事業に特化していただける環境づくりの一助になればと思い、本奨学金の設置を早稲田大学にお願いいたしました。

現在卒業される皆様の多くは、企業や官公庁への「就職」を目指すものと思われます。それ自体は全く否定されるものではありませんが、実は自然の流れとしてそのように進路が確定されているとすれば、個人的にはとても不思議なことです。本奨学金を通じて、皆様が起業もキャリアの選択肢のひとつとして考えていただければ幸いですし、あるいはすでに内在する起業家マインドの啓発のお役に立てれば、これほどうれしいことはありません。

学生生活を通して得た視点や能力を生かし、最前線で活躍する学生と校友を紹介します。
今回は創造理工学研究科博士後期課程2年の加藤陽さんと、株式会社CINRAの野村由芽さんに、
大学での学びや経験、社会とのつながりを語っていただきました。

在校生

Student

大学院修士課程と博士後期課程を5年間一貫で学ぶ早稲田大学博士課程教育リーディングプログラム。この実体情報学博士プログラムで電動義手を研究しているのが加藤陽さんだ。機械系と情報・通信系合わせて12専攻のバックグラウンドを異にする学生が、場を共有して日々の研究・学習生活をおくる同プログラムの研究スペース「工房」で、義手を動かすためのプログラミングや装置の考案に日々取り組んでいる。「義手は事故などで失ってしまった体の機能を補い、マイナスからゼロに近付ける。それだけではなく、機械の力で人間の力をさらに強化し、元の力よりプラスにもできることが面白いんです」と加藤さんは語る。

幼い頃から「スター・ウォーズ」や「機動戦士ガンダム」などの映画やアニメに

出てくるロボットが大好きな少年だった。義手の研究に興味を持ったのも、「映画やアニメの登場人物たちは、義手を自由に動かしている。それがなぜ現実でできないんだろう」という素朴な疑問からだった。アメリカ・マサチューセッツ工科大学メディアラボ所属、自身も両足義足であるヒュー・ハー教授の「障がいには人にあるのではなく、それを補填できていない技術にある」という言葉に感銘を受け、どんな人でも思い通りに動かせる義手の実現を目指している。

実は、加藤さんの祖父にあたる故・加藤一郎教授はかつて早稲田大学のロボット研究の第一人者で、日本初となる電動義手の製作にも携わっていた。実体情報学博士プログラムも、加藤一郎教授がかつて教え子たちと取り組んだ、

Snap Shot



留学先の研究室のメンバーと（加藤さんは左端）

学部横断のロボット研究を下地にして生まれたものだった。そして今、加藤さんは祖父の教え子の一人である菅野重樹教授のもとで研究に取り組んでいる。気付けば、祖父が目指した道を自身も歩んでいた。「祖父を知る教授から、『加藤先生の研究を越えるものを』と言われることもありますね」と加藤さんは笑顔で話す。

現在は自身の研究に加え、後輩の指導や研究発表の準備なども行い、朝10時から夜9時まで工房にいる日もある。工房は各研究室を仕切る壁がないため、研究が行き詰まった時には研究室に関係なく、学生同士が質問し合うことができる。「ここでは専門外の分野について、詳しい人が近くにいて、気軽に話を聞きに行ける。日々のコミュニケーションによって研究が進んでいると実感します」。今後はその特長を生かし、研究室の垣根を越えたチームで共同研究を進めることが課題という。「実体情報学博士プログラムの一期生として、後輩たちのロールモデルとなるような取り組みをしていきたい」と意気込む。思い描く未来の実現に向け、加藤さんは今日も研究に向き合っている。

誰もが使える 義手の実現へ 情熱を持って取り組む

加藤 陽さん

創造理工学研究科博士後期課程 2年

かとう・あきら

東京都出身。2010年、早稲田大学創造理工学部入学。2014年に当時研究指導を受けていた藤江正克教授に紹介を受け、早稲田大学実体情報学博士プログラムに進んだ。博士2年時に米国のカリフォルニア大学バークレー校へ半年間留学。そこで学んだオンとオフの切り替えを大切にしている。オフの時間は趣味のバスケットボールやアメリカンフットボールの観戦を楽しむ。



言 葉や表現に関心があることは、10代半ばから自覚していた。雑誌が好きで、原宿系のファッション誌「Zipper」を愛読し、街中の看板に書かれているキャッチコピーを観察しては、その意味を考えているような女子高生だったという。

第一文学部に入学した野村さんは、友だちを作ろうと、テニスサークルに入る。しかし、場所にうまくなじむことができず退会。自分は何をやりたいのかを見つめ直し、創刊して2年目のフリーペーパー「Cue」を編集するサークルの一員に。そこでの出会いや経験が野村さんの進路に大きな影響を与えた。「学生のサークルとはいえ、プロ意識が高く才能溢れる人たちがゴロゴロいて、自分の考えの甘さや主体性のなさを突きつけられました。この経験により社会人になる準備ができたと思います。サークルを通じて学内外での出会いがあり、その人間関係は現在の仕事にも活かされています」野村さんは、早大生で本当に良かったと言う。「もしも選択を間違ってしまったかもしれないと思っても、たくさんの選択肢が用意されているのが早稲田。個性的な人や『こうあるべき』にとらわれない人が多く、のびのびと個性を発揮できる環境が気持ちよかったですね。居場所を見つけやすい学校なんじゃないかなと思います」

「言葉の力で、世界像が変わっていく」ことの可能性を信じていた野村さんが就職先を選んだのは広告業界。発想とテクノロジーの力で新しい表現や発信ができ

これからの時代は、カルチャーがもっと必要になる

野村由芽さん
株式会社CINRA
エディター

のむら・ゆめ

2010年早稲田大学第一文学部卒業。2011年株式会社電通テック入社。ウェブ広告の制作進行に携わる。2012年に株式会社CINRAに転職。カルチャーニュースサイト「CINRA.NET」で取材・編集・企画制作を行う。2017年9月、自分らしく生きる女性を祝福するライフ&カルチャーコミュニティ「She is」を立ち上げ、編集長を務める。趣味は銭湯めぐり。



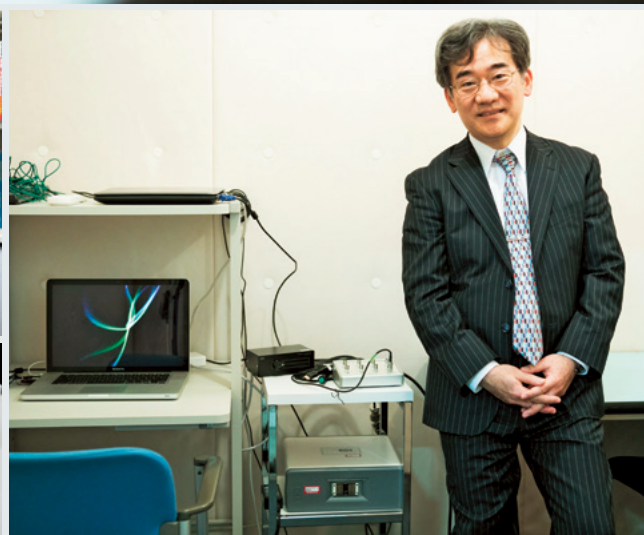
るウェブ広告に興味を持った。消費メーカーのキャンペーン広告の制作に携わり、新しいアイデアを形にすることにやりがいを感じていたが、ある時、自分が一生をかけてやりたいことは何だろうと考え直す機会があった。「消費を促すことよりも、心のよりどころになり、人生観を変えるきっかけを提供するカルチャーの発信のほうが自分の心に合っていることを再認識し、思いきってカルチャーニュースサイト『CINRA.NET』を運営する株式会社CINRAに転職しました」

社員二人で自ら社長に提案し、昨年9月に立ち上げたライフ&カルチャーコミュニティ「She is」は、女性をひと括りにせず、一人ひとりが持つ多様な心を大切に。「カルチャーは従来、衣食住

の次に来るものかもしれませんが、これからの時代は、自分らしく生きるためにもっと必要なものになっていくと思う。自分の気持ちに正直に行動し、やりたいことができる幸福な居場所を見つけた野村さん。現在は、人々に心のよりどころを提供する側として、新たな挑戦が続けている。



自分らしく生きる女性を祝福する
ライフ&カルチャーコミュニティ「She is」
<https://sheishere.jp/>



(上・左下) スピーチ場面における刺激入力と社交不安傾向の関連の検討：態度が異なる4人の聴衆が別室にいるという設定でスピーチを行い、脳血流を測定。人前で緊張しているとき、脳のどの部位を使っているのかを調査(中・中下) うつ病や不安障害に関係のあるマインドワンダリングの状態(心が迷走している状態)を、脳波を測りニューロフィードバックという技術を用いて操作。マインドワンダリングの状態を減らす効果的な訓練方法を研究



科学的なアプローチで
生活習慣や行動を変える

研究 最前線

Frontline Of The Study

社会に貢献する最新の
研究についてお話を聞きました。

頭 痛や腰痛など体の調子が悪く
なって診察を受けた結果、「何も
異常はありません」と診断された経験は
ないでしょうか。その場合、身体医学の
医師に対処法はなく、実はストレスがあ
り体調に悪影響を与えていることがあり
ます。もしこうした身体医学の診療現場
に、臨床心理学を学んだ専門家が入れ
ば、不調の要因と考えられるストレスにつ
いて理解でき、軽減を支援することがで
きます。

また、糖尿病などの生活習慣病の治療
では、薬を飲むだけでなく、運動習慣や
食習慣の改善など、患者自身が取り組ま
なければならない課題があります。しか
し、医師が「このままでは大変なことにな
りますよ」と患者を脅したところで、なか
なか自力で習慣を変えることは難しい。
実際、脅しでは行動は変わらないという
ことが実証されています。そこで、臨床心
理の専門家が科学的に実証されたアプ
ロッチで患者を支援することで、効率的
に習慣の改善を図ることが試みられてい
ます。私はもともと心療内科医ですが、ひ
とりの医師が患者の身体も心も生活も
全部カバーするのは無理で、チームで取
り組むことが現実的だと考えています。
しかし、医学的な素養を持つ臨床心理

の専門家は少ないので、それならば自分
で育成しようと考え現職に就きました。
2017年に始まった心理職の国家資格で
ある「公認心理師」はまさに医療チーム
の一員として患者を支援する仕事です
が、「公認心理師」を目指す人にとって、当
研究室は臨床を重視している点で、最も
合致しています*。患者の生活や行動へ
のアプローチは、医療現場においてはま
だまだ手薄。チーム医療が功を奏すれ
ば、生活習慣病や認知症の患者を減ら
し、医療費の削減にもつながります。

私の専門である行動医学は、以上のよ
うな身体医学のサポートと精神医学の
両方に貢献する学問です。患者の生活
習慣や行動を変えるためのアプローチ
は、科学的なデータが不足しているため、
研究室ではさまざまな方法で実証実験
を重ねています。例えば、糖尿病患者の
日常生活の状況、心理、行動、身体に関
わりを記録し、フィードバックして行動改
善に結びつけるという研究があります。
日常を可視化することで患者のモチベー
ションが高まり、具体的に何を变えれば
良いかが分かるので、効率的に生活習
慣を改善しやすくなるのです。記録方法
には、携帯電話に一日数回送られてくる
アンケートに回答したり、スマートフォン

に入っているアクチグラフ（加速度セン
サー）で活動指数を測ったり、パッチを腕
に貼るだけで持続的にデータが取得で
きる血糖値測定器を利用するなどの方
法があり、本人が自覚しにくい状態を記
録することが可能になっています。

また、うつ病や不安障害の治療として
認知行動療法が行われていますが、認
知行動のベースとなる認知能力そのもの
を高める訓練と症状の相関関係につい
ての研究も行っています。認知能力のひ
とつである“注意コントロール力”を高め
る練習をすると、気持ちに余裕ができる
ようになり、視野が広がって、うつ病や不
安障害が改善することが分かっています。
脳は筋肉のように鍛えることができ、
脳が変わると行動が変わる、またその逆
も可能であることは、さまざまな研究に
よって明らかです。

研究室のメンバーには、最初は専門を
絞らず少なくともふたつ以上の分野を勉
強して、相対的な視点を備えてほしいと
考えています。それが可能な人間科学部
の環境を生かし、学生とともに研究成果
を出していきたいですね。

※ 本学では人間科学部において、2018年4月以降の入学
者を対象に、公認心理師試験受験資格を得るために必要
な科目の全てを独自に用意することが決まっています。



臨床医として、一般向け
の書籍の執筆にも注力。
近著『キラーストレス』
から心と身体を守る！マ
インドフルネス&コーピ
ング実践CDブック』



糖尿病に対する携帯情報
端末を用いた心理行動科
学的アプローチ法の開発：
スマートフォンでアンケ
ートに回答することで、行動
と血糖値の相関関係を可
視化し、効率的な支援を
可能にする

Professor

熊野宏昭

人間科学学術院教授

くまの・ひろあき

1985年東京大学医学部医学科卒業。1995年博士
学位取得。東京大学心療内科医員、綾瀬駅前診療
所院長、東北大学大学院医学系研究科人間行動
学分野助手、東京大学大学院医学系研究科ストレス
防御・心身医学（心療内科）助教授・准教授を経て、
2009年4月より現職。





早稲田大学にゆかりのある方に、早稲田の魅力や目指すべき姿を語っていただきます。
今回は、独自のマーケティングに取り組むメルセデス・ベンツ日本株式会社の上野金太郎さんに、
大学時代の思い出や大学に期待することをお聞きました。

仕事と学業
充実した学生生活

——早稲田大学社会科学部に進学したきっかけをお聞かせください。

私は中学校までインターナショナルスクールに通い、高校から早稲田実業学校に進学しました。そこで早稲田の文化を体感したのが、早稲田大学に行こうと思った一番のきっかけです。同級生は仲が良くても必要以上に群れることはなく、個人の能力や個性を生かす早稲田の風土を感じました。スポーツなど一芸に秀でた生徒が多く、一人ひとりのモチベーションも高い。進学希望の仲間に触発される形で「早稲田大学に進みたい」と思うようになりました。

——学生生活ではどんなことに打ち込んでいましたか。

高校時代に始めた、自動車雑誌の編集アシスタントのアルバイトを続けながら大学に通っていました。撮影時のアシスタントや、取材時の英語通訳などで国内外の取材に同行し、日当をもらって生活費に充てていました。もともと車が好きで始めた仕事でしたし、働いて得たお金で生活できることが自信につながっていたので、忙しくても苦にはならなかったですね。取材現場で知らない世界を見たり、初めての仕事を一から教わったり

したので、毎日が充実していました。当時、原稿の間違いないかチェックする校正の仕事も習ったので、今でも社内の書類をチェックする時に、間違いをよく見つけてしまいます(笑)。

幅広いお客さまに
最も愛されるブランドを目指して

——メルセデス・ベンツ日本株式会社に入社された経緯をお聞かせください。

大学4年で就職活動を始めた時、英語と車の知識を生かせる仕事をしたいと考えていたところ、その年に設立された当社の存在を知りました。まだできたの30人ほどの小さな会社だったため、新卒採用の公募は特になく、飛び込みで受付に履歴書を提出しました。これは私の人生の中でも指折りの“思い切ったポイント”でした。面接してもらったところ、英語と車の知識が評価され、10日ほどで採用が決まりました。

入社後は営業部に配属され、港で車の輸入、通関、発注、検品など、輸入車販売の全ての仕事を2年間担当しました。その後は広報担当や役員補佐、さまざまな仕事を経験しました。いつも希望通りにキャリアを積んできたわけではないし、「これでいいのか」と悩むこともありましたが、どんな部署にも意味のない仕事はないと思って、力を尽くしてきました。そのおかげか、入社してから経験した仕

事は、全て現在の仕事に生きています。

——メルセデス・ベンツは、六本木や大阪、羽田空港に新しいコンセプトのショールームを開くなど斬新な取り組みをされています。それはなぜでしょうか。

現在、メルセデス・ベンツは、200万台のAクラスからフラッグシップモデルのSクラスまで、お客さまの多様なニーズにお応えする幅広いラインアップをそろえています。しかし、日本ではまだまだ「高級で手が出ない」「自分には関係のないブランド」というイメージをお持ちのお客さまも多くいらっしゃいます。そこで、副社長になった時に“クルマを売らないショールーム”のアイデアを提案しました。カフェやレストランを併設し、飲食サービスや空間を通してブランドに触れる情報発信拠点をつくりたいと考えたのです。当時、ドイツの本社・ダイムラー社からは反対されましたが、「18ヵ月間だけやらせてほしい」と頼み込んで、六本木に「メルセデス・ベンツ コネクション」をつくりました。この発想は今、「Mercedes me」というブランドとなり、世界中に同様のコンセプトの情報発信拠点が展開されています。

社長就任後は「メルセデス・ベンツ、最も愛されるブランドへ」というビジョンを掲げ、アニメーションを用いたTVCMを制作したり、レストランでラーメンを提供したりと、さまざまな方法でお客さまに当社の魅力

大切なのは全力を注ぐこと
選んだ道は信念を持ってやり遂げて

上野金太郎さん
メルセデス・ベンツ日本株式会社
代表取締役社長 兼 最高経営役員 (CEO)

を伝えてきました。ダイムラー社は世界最古の自動車会社ですから、当社が車の魅力を世の中に伝えるのは宿命であり役割でもあります。車でもカフェでも、幅広い方に「メルセデスっていいな」と感じていただく努力は今後も続けていくつもりです。

**できない理由を並べるより
できる方法を探そう**

—— 学生へ向けてメッセージをお願いします。

大学の4年間はとても重要な期間なので、勉学に課外活動、何事にも真剣に取り組んでほしいです。今の学生さんは真面目に勉強する人が多いと聞きますが、課外活動で人と出会ったり、遊んだりすることにも力を入れていいと思います。

私は、人生の9割くらいは運に左右されるもので、残りの1割は自分の選んだことだと思っていますが、そこに120%、150%の力を投下し、信念を持ってやり遂げることが大切だと思います。

振り返ってみると、私の人生は順風満帆とは言えません。会社の業績が低迷し、やり方に不評を買った時期もありました。しかし、そこから学んだのは、うまくいかないときに「できない理由をたくさん並べるよりも、できる方法を探そう」ということ。当社の社員にもよく言っていることですが、後ろ向きの努力ではなく、前向きなことを考える方に力を費やすべきだと思います。

—— 早稲田大学に期待することをお聞かせください。



年に10回以上行う新車の発表会には必ず自ら登壇。モデルの特性に合わせて演出方法や会場を選び、業界内外から好評を得ている

早稲田大学はIT化、国際化など世界の流れに対応して幅広い研究をしていると感じるので、今後も将来を見据えた教育や研究を続けてほしいです。学生はもちろん、私たちのような社会人も、知らなかったことをいつだって学びに行ける。そういう場であってほしいと思いますね。



Profile

うえの・きんたろう

1964年東京生まれ。1987年、早稲田大学社会科学部を卒業し、新卒第一期生としてメルセデス・ベンツ日本株式会社に入社。以後、数々の部署を経て、2012年に代表取締役社長に就任。従来の顧客を大切にしながら、新規顧客との接点作り、ユニークなマーケティング活動を積極的に展開。同社は2013年以降、5年連続で過去最高台数を更新中。

早稲田社会人教育事業室長
WASEDA NEO
マネジングディレクター
商学学院教授
博士(商学)
太田 正孝

おおた・まさたか
早稲田大学エクステンションセンター所長(現職)のほか、これまで大学院商学研究科長(Waseda Business Schoolを含む)、早稲田大学常任理事(教務、国際担当)等を歴任。最近の著書に、『カルロス・ゴーンの経営論』(日本経済新聞出版社、2017年)など。



あらゆる社会人が集い イノベーションを生む 新しい学びの場づくり

社会人を対象として2017年に立ち上げた新事業「WASEDA NEO」。
早稲田大学のリソースを活用し、従来の社会人教育にとどまらない
新しいサービスを提供していきます。
本事業について、立ち上げの意図や今後の展望を伺いました。

利用者と大学が共創する オープンイノベーション

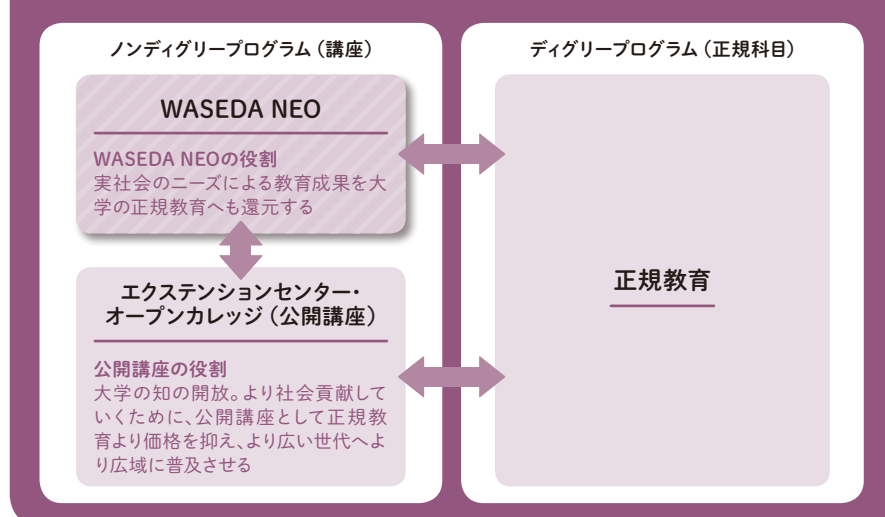
「WASEDA NEO」は、グローバルビジネスの展開やイノベーション創出を目的として、実践的研修プログラムや学びの場のコミュニティサービスを提供する新事業です。変革志向の強い社会人や企業を主たる対象に、都心部にあり交通アクセスに恵まれた日本橋キャンパスにおいて2017年9月からプログラム提供をスタートしました。

これまでは伝統的に、研究・教育機能を広く社会へ開放する“知の開放”の観点から生涯教育の役割を担ってきました。特に早稲田大学では1886年より『早稲田講義録』の刊行や巡回講話の開催を通じて、全国津々浦々の中等高等教育を受けられない方々に学びの機会を

提供するとともに、経営面でも早稲田大学を支えていました。こうした役割は、1981年設立のエクステンションセンターによって再開され、オープンカレッジ(公開講座)など多様な学びの場を提供しています。いまやエクステンションセンターは国内最大規模の公開講座事業を展開する組織となり、学内で確立された研究・教育を一般向けに開放する“知の開放”の実績を着実に積み重ねるとともに、優れたノウハウを築いてきました。

一方、WASEDA NEOが目指すのは、新しい知の獲得ならびに創造的な価値提起を促進するBlendipity[®]の実現であり、学内外の研究者と実務家との交流を通じた社会イノベーションの促進です。こうした過程を通じて開発される製品、サービス、ノウハウは大学本体が新しい教育プログラムを編成する際にも

早稲田大学の社会人教育・生涯教育の戦略



WASEDA NEOの提供するサービス

現在、出勤時間前や就業時間後を自分の成長のために投資したい個人を対象としたオープンプログラムを設置。今後は昼間にもさまざまな分野の実践的研修プログラムを予定する。その他、各業界のイノベーターたちによる講座が受講でき、日本橋キャンパス内のビジネスセンターやラウンジも利用できる会員制の「パイオニア・コミュニティ」も提供している。



役立つでしょう。利用者だけでなく、大学にとってもウイン・ウインとなるオープンイノベーションを目指しています。学内外、国内外を問わずオープンマインドで新しい考えを取り入れるという意味において、WASEDA NEOは本学のバックボーンである「進取の精神」を今日の社会人教育ニーズにフィットさせたものなのです。

高い機動力で時代をリードする ノンディグリープログラム

日本橋キャンパスでは現在、変革志向を持つビジネスパーソンを対象としたセミナーや、会員制の学びの場であるコミュニティサービスを提供しています。講師には本学教員だけでなく、国内外の実務家や研究者を積極的に巻き込んでいます。本学には各界で活躍する教員と校友の優れたヒューマンキャピタルがあるため、それを梃子に「ハイブランド、ハイクオリティ、ハイパフォーマンス」なサービスを提供していきます。現在、段階的に各種プログラムを設置しておりますが、10月からは早朝出勤前の時間を活用できる「日本橋ブレックファストセミナー」も開設し、2ヵ月間で約100人に受講していただきました。

WASEDA NEOが提供するプログラム

の大きな特徴は、学位取得を目的としないノンディグリープログラムであることです。社会人教育に関しては、MBAなどのディグリープログラムが重視される傾向にありますが、時代のニーズに迅速に対応する社会イノベーションの開発にはノンディグリープログラムはよりフィット感が高いと言えます。設置までに多くの時間や手続きを必要とするディグリープログラムとは異なり、ノンディグリープログラムはタイムリーに設置できる優位性があるからです。また、本学教員は既存知識を教えることだけでなく、当然のことながら未知の分野を探索する潜在力も有しており、こうした研究者の強みを機動的に生かせるのもノンディグリープログラムの魅力です。現在提供しているプログラムとしては、University of Pennsylvania Wharton Schoolなど世界のトップビジネススクールと共同開催しているGlobal Resilient Leadership Program、日本社会の未来を切り開いてきた各界のパイオニアをお招きする月例パイオニアセミナー、さらにはデザインシンキング、ファシリテーション、プレゼンテーションスキルといったコミュニケーション能力を中心に学ぶ講座などを設置しています。さまざまなニーズに応じて今後さらにプログラムの設置をすすめ、多様な分野の知が混ざり合うことで画期的な発

想が出現する“知のグローバル楽市楽座”へと着実に進化していきます。各学術院の先生方から新しい教育の試みをWASEDA NEOにご提案いただければ、プログラムとして設置できるようコーディネートいたします。

アジアの価値を発信する パイオニア育成に向けて

質の高い学びと交流の機会は、個人に提供するだけでなく、企業などの組織にも提供していきます。オープンイノベーションに参画する企業や業界の発展、さらにはアジアの価値を世界に発信する創新的なグローバルリーダー育成にも貢献したいと考えています。WASEDA NEOらしいプログラムをデザインするとともに、多くの人にBlendipityの醍醐味を堪能していただけるコミュニティづくりの“地ならし”を続けております。

※ WASEDA NEOでは「変革志向の人が出会い、交わる場と機会を提供することで、価値あるものを発見してもらう」ことを一言で表すコンセプトとして「Blendipity (Blending+ Serendipity)」を提唱している



News Report

大 学 の 今 を 知 る

index

9月 September

R 9/6-20

エセックス大学サマースクール2017を早稲田大学で開講 →P25 Pick Up

10月 October

U 10/9

ボン大学より学長らが来校し「早稲田大学におけるボン大学デー」を開催

R 10/11

スマート社会技術融合研究機構の研究グループが、地域特性を都市規模で捉えた配電系統モデルを国内外で公開

A 10/13・14

庭球部 アベックで王座12連覇達成。男子部は圧巻の13連覇 →P26 Pick Up

A 10/15

第52回ホームカミングデー・稲門祭

R 10/17

大橋啓之研究院教授らが、グラデーション変化する調光ガラスの開発に成功

U 10/19

東京2020オリンピック イタリアチームの事前キャンプ地に関する覚書締結式 →P21 Pick Up

A 10/24

演劇博物館初の野外上映会「エンバクシネマ」を開催 →P26 Pick Up

11月 November

R 11/2

理工学術院・鳥居祥二教授らの研究グループが、宇宙からの直接観測で3テラ電子ボルトまでの高精度電子識別に初めて成功 →P25 Pick Up

U 11/4・5

「第64回理工展」が開催

A 11/6

第六回早稲田大学坪内逍遙大賞授賞式・祝賀会開催 →P26 Pick Up

R 11/7

「私立大学研究ブランディング事業」に本学の提案「医理工社連携による社会の新しいデザイン」が採択

U 11/13

Twitter社のジャック・ドーシー CEOが西早稲田キャンパスで講演

A 11/16

「WASEDAサポーターズ倶楽部 エグゼクティブ・フォーラム2017秋」開催 →P25 Pick Up

A 11/22

3号館が第58回BCS賞（日本建設業連合会）特別賞を受賞

A 11/28

経営管理研究科が国内第1位に QS社「Global MBA Rankings 2018」

U 11/30

第17回「石橋湛山記念 早稲田ジャーナリズム大賞」贈呈式・レセプション開催 →P22 Pick Up

12月 December

R 12/1

文科省研究大学強化促進事業中間評価最高評点Sを獲得 →P24 Pick Up

R 12/1

産学官コンソーシアムによるデータ科学総合研究教育センターを設置 →P24 Pick Up

A 12/3

バレーボール部男子が全日本大学選手権で4年ぶり優勝

U 12/4

保護主義ではなくアクティブな多国間主義を フランス銀行総裁による講演会を開催 →P22 Pick Up

R 12/4

Wiki版『早稲田大学百年史』の公開を開始

U 12/5

ロイヤル・アイリッシュ・アカデミーのマイケル・ケネディ博士「アイルランドと日本 60年の友好関係を振り返って」講演会開催

U 12/7

2017年度 早稲田大学リサーチアワード WASEDA RESEARCH AWARD の受賞者が決定 →P23 Pick Up

R 12/7

理工学術院・奥乃博教授らの研究グループがドローンによる災害発生時の迅速な救助につながる技術を開発 →P23 Pick Up

A 12/8

力士による餅つき大会を実施

U 12/13

TWIns「第1回日本医療研究開発大賞 経済産業大臣賞」を受賞 →P21 Pick Up

U 12/14

法学学術院・瀬川信久教授が日本学士院会員に選出

U 12/15

第11代総長・清水司先生「お別れの会」を執行

U 12/18

アジア各地で日本留学紹介番組「Catch Your Dream! - 早稲田大学編」が放送

R 12/18

理工学術院・齋藤潔教授らの研究グループが、深層学習により高精度な沸騰熱伝達予測モデルを構築

世界の医療分野の研究推進に多大なる貢献

TWIns 第1回日本医療研究開発大賞を受賞

東京女子医科大学先端生命医科学研究所と早稲田大学先端生命医科学センター (TWIns) は、「第1回日本医療研究開発大賞 経済産業大臣賞」を共

同受賞し、2017年12月13日、総理大臣官邸で表彰式が行われました。

本賞は、世界の医療の発展に向けて医療分野の研究開発の推進に多大な

る貢献をしたと認められる個人または団体に対して贈られます。日本医療研究開発大賞は新設され、今回「TWIns等における医工連携を担う人材育成拠点の形成」という受賞理由で、第1回の受賞となりました。

TWInsでは2008年の竣工以来、東京女子医科大学の持つ医学・医療の知識と早稲田大学の持つ理工学の知識を融合させ、生命医療系分野での先進的な研究を進めてきました。医学・工学・薬学・生物学などあらゆる分野の研究者が同一施設内で集学的研究開発および人材育成を展開し得る体制が評価されました。



東京女子医科大学からは先端生命医科学研究所の清水達也所長(左)が、早稲田大学からは先端生命医科学センターの柴田重信センター長(右)が列席しました

東京2020オリンピックへ向けて始動

イタリアチームの事前キャンプ地に関する覚書を締結

早稲田大学は、埼玉県、所沢市とともに、東京2020オリンピック競技大会におけるイタリア共和国オリンピックチームの事前トレーニングキャンプについて、イタリアオリンピック委員会と覚書を締結しました。

イタリア大使館で2017年10月19日に実施された締結式には、来賓としてジョルジョ・スタラーチェ駐日イタリア共和国特命全権大使、森喜朗組織委員会会長、齋藤泰雄JOC副会長も出席しました。式の中で本学所沢キャンパスを拠点に陸上・競泳など複数競技で200人以上の選手がキャンプする計画があ

ることや、所沢キャンパス隣接地に宿泊施設を新設することが発表されました。

トレーニングキャンプの競技種目や実施時期など詳細については、イタリア

オリンピック委員会と協議を進め、2018年12月までに正式契約を締結する予定です。



左から、鎌田薫早稲田大学総長、カルロ・モルナーティイタリアオリンピック委員会副事務総長、上田清司埼玉県知事、藤本正人所沢市長

受賞者決定

2017年度 リサーチアワード、2017年度春学期 ティーチングアワード

2014年度より、早稲田大学では独創的研究の推進と国際的な情報発信力の強化を目的として早稲田大学リサーチアワードを、優れた教育方法と創意工夫の普及により教育の質のさらなる向上を目的として早稲田大学

ティーチングアワードを設け、表彰しています。リサーチアワードには「大型研究プロジェクト推進 (Large Research Project)」と「国際研究発信力 (High-Impact Publication)」があり、大規模な研究を主導的に推進している研究者

および国際発信力の高い研究業績をあげている若手研究者に授与されます。ティーチングアワードは正規科目を担当する教員を対象に、科目を設置する学部、研究科および研究教育センターごとに受賞者が選出されます。

リサーチアワード (大型研究プロジェクト推進) 受賞者

氏名	研究課題名
大木義路 (理工学術院教授)	電気・計装設備の長期健全性評価技術調査研究
巽宏平 (理工学術院教授)	自動車向けSiC耐熱モジュール実装技術の研究開発
林泰弘 (理工学術院教授)	汎用的な実証基盤体系を利用したシナリオ対応型分散協調EMS実現手法の創出

リサーチアワード (国際研究発信力) 受賞者

氏名	研究分野
青木則幸 (法学学術院教授)	民法法学
入山章栄 (商学学術院准教授)	経営戦略論、国際経営論
佐藤政充 (理工学術院准教授)	細胞生物学、分子生物学
下嶋敦 (理工学術院教授)	無機材料・物性
福永有夏 (社会科学総合学術院教授)	国際法学

氏名	研究分野
ホブゾン クリストファー (政治経済学術院准教授)	政治学、国際関係論
松本淳 (人間科学学術院教授)	大気環境化学
鷲崎弘宣 (理工学術院教授)	ソフトウェア工学
渡邊孝信 (理工学術院教授)	電子材料工学、計算科学

ティーチングアワード総長賞 受賞者

氏名	科目名
田中久稔 (政治経済学術院准教授)	経済数学01
山名早人 (理工学術院教授)	論理回路
小川哲司 (理工学術院准教授)	空気調和衛生設備
大高一博 (早稲田大学非常勤講師)	酵素工学
桐村光太郎 (理工学術院教授)	

氏名	科目名
窪菌晴夫 (早稲田大学非常勤講師)	対照言語研究B
篠原尋史 (理工学術院教授)	省エネルギー LSIシステム
柳良平 (早稲田大学非常勤講師)	株主価値創造理論とIR
竹内規彦 (商学学術院教授)	人材・組織 (夜間主)

ティーチングアワード 受賞者

氏名	科目名
田中愛治 (政治経済学術院教授)	Political Process 01
高木悟 (早稲田大学非常勤講師)	微分方程式 (基礎) 01
矢田部浩平 (理工学術院助教)	メディア処理技術概論
村田克 (理工学術院准教授)	労働衛生工学
木内公夫 (早稲田大学非常勤講師)	測量
井上真郷 (理工学術院教授)	情報理論
湯浅一哉 (理工学術院教授)	電磁気学C
蒲谷宏 (国際学術院教授)	日本語教育実践研究 (2)
李義顔 (理工学術院教授)	制御工学

氏名	科目名
ドーラン ダニエル P. (商学学術院教授)	Corporate Governance - Basic
杉浦正和 (商学学術院教授)	Management Issues in Japanese Business
岩田ヘレン (早稲田大学非常勤講師)	戦略的思考とコミュニケーション
大江親臣 (早稲田大学非常勤講師)	身近な化学への招待 (導入) β
石原浩二 (理工学術院教授)	
江正殷 (早稲田大学非常勤講師)	台湾を知る (入門)
花田達朗 (教育・総合科学学術院教授)	ジャーナリズム概論
野中章弘 (政治経済学術院教授)	
金敬默 (文学学術院教授)	

大賞3名、奨励賞1名が受賞

第17回「石橋湛山記念 早稲田ジャーナリズム大賞」贈呈式

11月30日、第17回「石橋湛山記念 早稲田ジャーナリズム大賞」贈呈式が行われました。島田陽一副総長の挨拶に続いて、大賞3名・奨励賞1名の受賞者に、賞状、副賞のメダルおよび目録が授与されました。贈呈式には、受賞者と共に取材・報道に尽力した取材チーム等の方々、報道・メディア関係者、ジャーナリストを志す本学学生など100名以上が出席。選考委員の広河隆一氏の講評、その後に続いた受賞者の熱いスピーチに、来場者は熱心に聴き入っていました。



前列左より、三村忠史氏、坂本信博氏、島田陽一副総長、鎌田薫総長、林典子氏、島袋夏子氏
後列左より、秋山耿太郎委員、八巻和彦委員、後藤謙次委員、広河隆一委員、高橋恭子委員、武田徹委員、瀬川至朗委員、吉岡忍委員

授賞作品

公共奉仕部門 大賞	NHKスペシャル「ある文民警察官の死～カンボジアPKO 23年目の告白～」
草の根民主主義部門 大賞	西日本新聞社「新 移民時代」
文化貢献部門 大賞	林 典子『ヤズディの祈り』
公共奉仕部門 奨励賞	琉球朝日放送「枯れ葉剤を浴びた島2～ドラム缶が語る終わらない戦争～」

保護主義ではなくアクティブな多国間主義を

フランス銀行総裁による講演会を開催

2017年12月4日、国際課、スーパーグローバル大学創成支援実証政治経済学拠点、現代政治経済研究所、政治経済学術院はフランス銀行フランソワ・ビルロワドガロー総裁を迎え「欧州が直面する経済課題への挑戦」と題する講演会を開催しました。総裁は、グローバル課題に立ち向かうためアクティブな

多国間主義が必要と主張。「国同士の協力がこれまで以上に重要になってきており、欧州と日本は他国と共に共通で尊重されているルールや多国間機関に基づいて国際経済関係を守る必要がある」と述べました。最後にノーベル賞受賞者カズオ・イシグロ著の『日の名残』からの文章を引用し、経済組合のより良い機



530名を超える多くの聴衆を集め、講演後のQ&Aセッションでは活発な議論が行われました

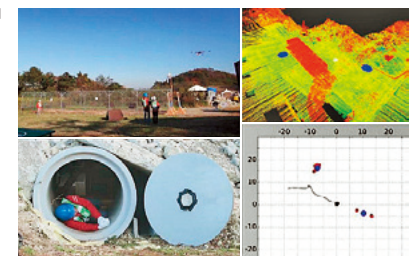
能に向けて進展することの大切さを強調。「私は今では不可能と思われることでも達成できることを強く信じています」と講演を締めくくりました。

ドローンが耳を澄まして要救助者の位置を検出

災害発生時の迅速な救助につながる技術を開発

内閣府総合科学技術・イノベーション会議が主導する革新的研究開発推進プログラム (ImPACT) タフ・ロボティクス・チャレンジの一環として、本学の奥乃博教授、鈴木太郎助教らの研究グループは、ドローン自体の騒音や風などの雑音を抑え、要救助者の声などを検出し迅速な人命救助を支援できるシステムを世界で初めて開発しました。このシステムは、3つの技術要素

ーマイクロホンアレイ技術によるドローンや風の騒音下での音源検出の実現、音源の三次元位置推定・地図表示技術開発によるわかりやすいユーザインタフェースの構築、ケーブル1本で接続可能な全天候型マイクロホンアレイの開発ーを組み合わせることで構築されています。このシステムにより、人が瓦礫の中にいて見つけにくい場合や、夜間、暗所などカメラが使えない場所でも、



金網ケージのそば (上図左端) にいる要救助者や瓦礫 (土管) の下の要救助者をその声から発見している様子
(右上地図の青丸が検出された音源位置を表す)



手前の球が
マイクロホンアレイ

近い将来、レスキュータスクの有望なツールとなることが期待できます。

最高評点Sを獲得

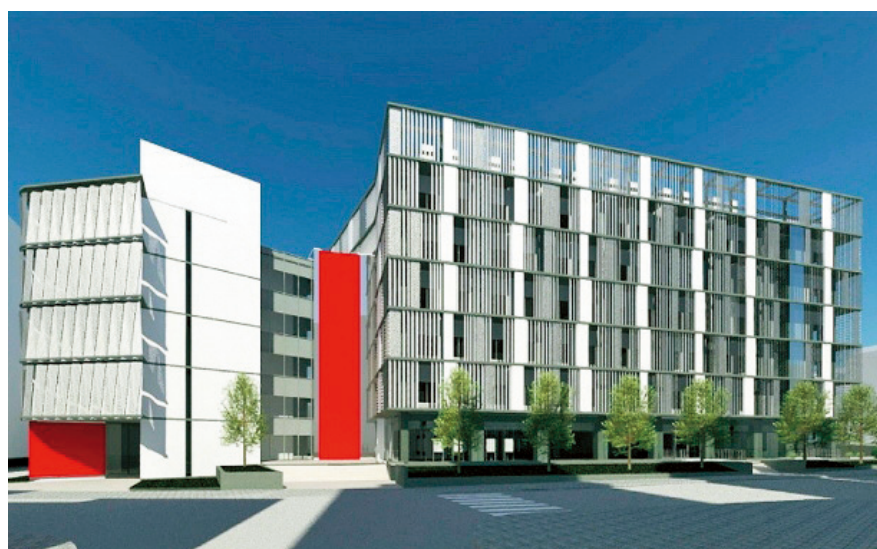
文科省「研究大学強化促進事業」中間評価

2017年秋に実施された文部科学省「研究大学強化促進事業」の中間評価において、本学は「特筆すべき進捗状況」にあり、構想を十分達成でき、今後も

大いに発展することが期待できる」という最高のS評価を受けました。

「研究大学強化促進事業」は文部科学省が推進し、世界水準の優れた研究

活動を行う大学群を増強、我が国全体の研究力の強化を図るため、大学等による研究マネジメント人材群の確保や集中的な研究環境改革等の研究力強化の取組を支援する事業で、平成25年度より大学等22機関が選定されており、本学はさまざまな教育機関の中から、日本の研究大学にふさわしい大学として認定されています。今後も複合的な施策によって課題を解決しつつ、大学本部と研究現場である学術院や研究院、さらには研究者が有機的に協働し、国際研究大学を目指します。

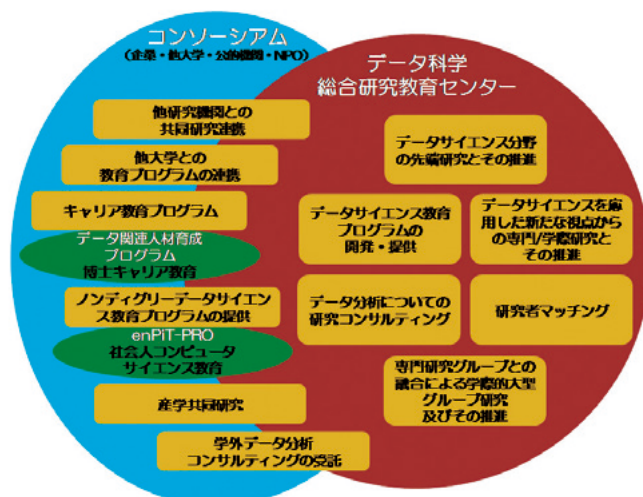


研究の事業化の具体例は、平成32年竣工予定の120号館地区の新棟であり、産学連携を中心とした水準高い研究拠点に発展させる計画

私立総合大学の理工系・人文社会科学系の叡智とデータサイエンスの大融合

データ科学総合研究教育センターを設置

2017年12月1日、「データ科学総合研究教育センター」を早稲田キャンパスに設置しました。情報・通信技術の進展による多種多様なデータの取り扱いが可能となり、理工系・人文社会科学系の専門領域にかかわらず、データ科学の重要性がますます高まっています。多分野融合及び産学官連携を強く推し進める本学にも、学内および産学官からデータ科学へのニーズが多く寄せられていました。本センターは、私立総合大学の強みを最大限に活かし理工系・人文社会科学系の専門領域とデータ科学との知見の融合を図るプラットフォームを提供します。総合知の創造とグローバル社会の問題解決を担う人材の育成および大学の研究力向上を目的とし、国内外の大学、産業界、政府機関等と大規模なネットワークを形成し、データ科学における世界の先進的モデルの拠点として実践的な教育と研究の普及に努めます。



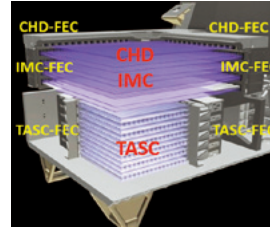
センターの全体像と主機能。超大型コンソーシアムを作ることを目指し、各企業との広範な事業連携を加速させます

日本の宇宙線観測初めての本格的な宇宙実験

3テラ電子ボルトまでの高精度電子識別に成功

CALET代表研究者鳥居祥二理工学
術院教授、浅岡陽一次席研究員と国立
研究開発法人宇宙航空研究開発機構
(JAXA) およびイタリア、米国の国際共同
研究グループは、国際宇宙ステーション
(ISS)・「きぼう」日本実験棟の船外実験
プラットフォームに搭載された宇宙線電
子望遠鏡 (CALET) で、これまで困難で
あったテラ電子ボルト領域において、3

テラ電子ボルトまでの高精度エ
ネルギースペクトルの測定に初め
て成功しました。これにより、これ
まで困難であった1テラ電子ボルトを超
えるエネルギーをCALETが高い精度で
直接測定できることを証明でき、今後5
年間の観測データを蓄積し解析するこ
とで、今回の結果の約6倍の統計量を
達成できます。これらの電子スペクトル



CALETの主検出である
カロリメータ部の装置概要。
上から、電荷測定器 (CHD)、
撮像型カロリメータ (IMC)、
全吸収型カロリメータ (TASC)

の測定により、近傍加速源を発見し、暗
黒物質の正体を解明していくことが大き
く期待されています。

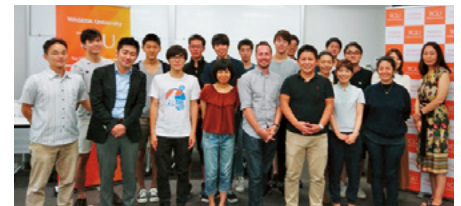
本研究成果は、国際学術雑誌
『Physical Review Letters』オンライン版
に2017年11月1日に掲載されました。

コース修了後はエセックス大学より修了証も

エセックスサマースクール2017開講

スーパーグローバル大学創成支援
実証政治経済学拠点は英国・エセッ
クス大学と共催で「エセックス大学サ
マースクール」を2017年9月6日～20日の
期間、開講しました。2年目となる今年は、
「Maximum Likelihood」と「Multilevel
Analysis」の2つのコースを開講。両コース
とも中級レベルの統計学と重回帰分析
を既習した大学院生および学部3、4年生

を対象とし、「Maximum Likelihood」は
千葉大奈准教授、「Multilevel Analysis」
はLucas Leemann准教授というエセッ
クス大学政治学部で教鞭をとる政治学
者によってすべて英語で行われました。
本学学生だけでなく、同志社大学、慶
應義塾大学、神戸大学の学生も参加
し、コース修了後はエセックス大学から
修了証を受け取りました。早稲田大学



9月20日の最終試験後、プログラムが無事終了したことを
祝うレセプションが行われ、両コースの講師や受講生ら
が参加しました

実証政治経済学拠点はSGU「Waseda
Ocean構想」拠点のひとつであり、今後
もサマースクールを開催・拡大してい
くことを目指しています。

早稲田大学への支援者との集い

「WASEDAサポーターズ倶楽部 エグゼクティブ・フォーラム2017秋」開催

2017年11月16日「早稲田大学をご
支援いただいている皆様との集い
WASEDAサポーターズ倶楽部 エグゼク
ティブ・フォーラム2017 秋」を開催。今
回は同倶楽部特別会員 (本学名誉称
号贈呈者) である校賓、維持員、荣誉賛
助員、光輝賛助員ならびに名誉賛助員
が招かれました。第1部では鎌田総長に
よる挨拶の後、渡邊義浩文学学術院教

授による「三国志の世界」についての講
演会が行われました。第2部の懇親会
は、日枝久WASEDAサポーターズ代表
の乾杯で始まり、WSCメンバーズ基金
の支援事業より体育各部を代表して競
走部の相楽豊駅伝監督から御礼と箱
根駅伝に向けての意気込みが語られま
した。さらに、WSCメンバーズ基金グ
ローバル人材育成奨学生やスーパーグ



参加者による「早稲田大学校歌」斉唱

ローバル大学創成支援ICT・ロボット工
学拠点の学生が会員の方々への御礼と
現地での経験を報告。最後は応援部の
リードのもと、紺碧の空・早稲田大学校
歌を斉唱し、盛会裏に終わりました。

男子部は圧巻の13連覇

庭球部 アベックで王座12連覇達成！

テニスの団体戦日本一を決める戦い、全日本大学対抗王座決定試合（王座）。2017年10月13日の女子決勝で庭球部女子が筑波大学を5-0で破り優勝、王座12連覇を達成。翌日14日の男子決勝で庭球部男子が慶應義塾大学を8-1で破り優勝、王座13連覇を達成し、アベッ

クで王座12連覇の快挙を成し遂げました。チームを支えた4年生は今大会をもって引退となりますが、早稲田大学校歌で「集まり散じて人は変われど、仰ぐは同じき理想の光」と歌われるがごとく、庭球部は新たな体制・メンバーで2018年シーズンもさらなる王座連覇に挑みます。



早慶戦を制し13年連続日本一の男子部

柴田元幸氏、アーサー・ピナード氏 喜びを語る

第六回早稲田大学坪内逍遙大賞授賞式・祝賀会開催

創立125周年を記念し2007年に創設された早稲田大学坪内逍遙大賞。文学・演劇・翻訳など幅広い分野で日本文化の礎を築いた坪内逍遙の名を冠し、文芸をはじめ文化芸術活動において著しい貢献をなした方を隔年で顕彰しています。第六回受賞者として大賞に柴田元幸氏、奨励賞にアーサー・ピナード氏が決定しました。11月6日に

行われた授賞式では、高橋源一郎選考委員長は「今年は偶然翻訳者であるお二人が受賞した。坪内逍遙は日本文学が翻訳から始まったことを教えてくれた存在である。早稲田大学坪内逍遙大賞にとってこのお二人を同時に選ぶことができたのは大変画期的であり、素晴らしい出来事であると思う」と語りました。



前列左より、高橋源一郎委員長、柴田元幸氏、鎌田薫総長、アーサー・ピナード氏、鶴飼哲夫副委員長
後列左より、小野正嗣委員、加藤典洋委員、田中光子委員、松永美穂副委員長

演劇博物館初となる野外上映会

「エンパクシネマ」を開催

2017年10月24日、文化庁補助金事業「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の一環として、正面舞台を利用した野外上映会「エンパクシネマ」が開催されました。会場となった演劇博物館周辺には、立ち見も含めて400人以上の人々が集まり、大盛況の中での上映となりました。今回上映された『チャップリンの消防夫』『生さぬ仲』『雷門大火 血染の纏』の3本は、いずれも1916年に製作された無声映画。演奏を担当



した「映楽四重奏 The Film Quartet」は弁士、三味線、ピアノ、太鼓の4人による国際的に活躍している無声映画のための演奏集団です。来場者からは「エンパクシネマ」の定期開催を望む声が多数寄せら

大迫力の画面に映し出された派手な立ち回りシーンをピアノ、三味線、太鼓が大合奏。作品の潜在的な魅力が存分に引き出され、観る者を圧倒しました

れました。現在、同博物館は創立90周年に向けた準備のため長期休館中。リニューアルオープン後の生まれ変わった新しい“エンパク”で、ぜひ第2弾の開催を実現したいと思います。

BOOKS



本学教員の著書や各部署による
刊行物をご紹介します。

※()内は著者・編者・監修者の所属(刊行時)です

今号のオススメ

「座りすぎ」が寿命を縮める

岡浩一朗(スポーツ学術院) 著
大修館書店 2017年10月



私たちは毎日どれくらい座りすぎているのか、座りすぎにはどのような健康・労働影響があるのか。また、どうすれば座りすぎを防ぎ、健康的な生活が送れるようになるのかについて、最新の研究データに基づいて解説。座りすぎによる悪影響についての理解を促し、健康的なライフワークスタイルの実践を叶える指南書。

- 『リーダーシップの探究
ー変化をもたらす理論と実践』
日向野幹也(研究院) 監訳
早稲田大学出版部 2017年8月
- 『刑事法学の未来 ー長井園先生古稀記念』
高橋則夫(法学学術院)・
寺崎嘉博(法学学術院) ほか編 信山社
2017年9月
- 『文章を科学する』
李在鎬(国際学術院) 編 ひつじ書房
2017年10月
- 『不動産の法律知識(第2版)』
鎌野邦樹(法学学術院) 著
日本経済新聞出版社 2017年10月
- 『有斐閣判例六法 平成30年版』
中田裕康(法学学術院)・
長谷部恭男(法学学術院) 編集代表
有斐閣 2017年10月
- 『朝鮮史2 近現代』
李成市(文学学術院) ほか編 山川出版社
2017年10月
- 『機械系の材料力学』
宮下朋之(理工学術院) ほか著 共立出版
2017年10月
- 『現代東アジア経済論』
深川由起子(政治経済学術院) ほか編著
ミネルヴァ書房 2017年10月
- 『早稲田学報』
早稲田学報編集室 早稲田大学校友会
2017年11月
- 『中国契約法』
小口彦太(早稲田大学名誉教授) 監訳
早稲田大学出版部 2017年11月
- 『民法概論1 民法総則』
山野目章夫(法学学術院) 著 有斐閣
2017年12月
- 『中近世移行期の公儀と武家権力』
久保健一郎(文学学術院) 著 同成社
2017年12月
- 『マンガでわかる薬理学』
枝川義邦(研究院) 著 オーム社
2017年12月
- 『植民地台湾の自治 自律的空間への意思』
野口真広(研究院) 著 早稲田大学出版部
2017年12月
- 『日本メディア史年表』
土屋礼子(政治経済学術院) 編 吉川弘文館
2017年12月

EVENTS

本学で4月までに開催されるイベントを一部ご紹介します。

詳細は、直接【問い合わせ先】にご確認ください。

その他のイベントにつきましては、本学Webサイト

(<https://www.waseda.jp/top/event>) イベント情報をご覧ください。

2-4月

會津八一記念博物館

①直良信夫展

②花と鳥

会場 ①125記念室(26号館10階)

②會津八一記念博物館

1階富岡重憲コレクション展示室

日程 ①2018年2月26日(月)～3月26日(月)

この企画展では、考古学的および古生物学的観点から、直良信夫が手がけた学問の世界と早稲田大学における研究活動の記録を紹介します。

②2018年3月1日(木)～4月23日(月)

日本・中国・朝鮮半島の絵画と陶磁器、漆芸品などの工芸品から、花と鳥の画題・意匠のものを選び、新たな春学期を迎えるのにふさわしい、華やかな彩りの作品を展示します。

問 會津八一記念博物館

TEL: 03-5286-3835

URL: <https://www.waseda.jp/culture/aizu-museum/>

坪内博士記念演劇博物館

国際シンポジウム

「不可能への挑戦

形のないアートを保存する

ー博物館におけるパフォーミングアーツとメディアアーツのアーカイブと展示ー

会場 国際会議場 第一会議室

日程 2018年2月22日(木)

17:30～19:30(開場17:00)

国内外の博物館のキュレーターをお招きし、保存が困難なパフォーミングアーツ等のアーカイブ及び展示について検討していきます。

※要事前予約(先着順)。詳しくは演劇博物館ウェブサイトをご覧ください。

問 坪内博士記念演劇博物館

TEL: 03-5286-1829

(平日9:00～17:00)

URL: <https://www.waseda.jp/enpaku/>

平山郁夫記念ボランティアセンター WAVOCボラカフェ

会場 3号館CTLT教室(201～203)

日程 2018年4月4日(水)、4月5日(木)

ボランティアに興味がある学生と実際にボランティアをしている学生を繋ぐための交流(新歓)イベントです。

問 平山郁夫記念ボランティアセンター TEL: 03-3203-4192

URL: <https://www.waseda.jp/inst/wavoc/>

留学センター 春の留学フェア

会場 国際会議場

日程 2018年4月20日(金)午後のみ、

21日(土)午前・午後(予定)

留学先の大学の担当者や留学経験者、学部・留学センタースタッフなどから、留学に関する情報が一気に収集できるイベントです。在学中に長期・短期の留学を少しでも考えている方は、ぜひ参加してください。

問 留学センター TEL: 03-3208-9602

URL: <https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/event>

文化企画課 第9回早稲田狂言の夕べ

会場 早稲田大学大隈記念講堂

日程 2018年4月17日(火)17:30～

校友で人間国宝の野村万作氏、ご子息で推薦校友の野村萬斎氏をはじめ、豪華出演者による狂言公演を開催します。

※詳細は、2月以降に下記Webサイトに掲載予定

問 文化企画課 TEL: 03-5272-4783

URL: <https://www.waseda.jp/culture/>

図書館

①新収資料展 ②Library Week 2018春

会場 ①中央図書館2階展示室

②早稲田大学図書館各館

日程 ①2018年3月23日(金)～4月26日(木)

図書館に新しくご寄贈いただいた貴重な資料を中心に出版します。卒業生および新入生向けに早稲田大学ゆかりの資料も多数出します。

②2018年4月9日(月)～4月13日(金)

図書館を楽しむイベントLibrary Week。今年も多様なイベントを企画しています。この機会に、図書館をぜひ訪問してみてください。

問 ①図書館特別資料室

TEL: 03-5286-1754

②図書館利用者支援課

TEL: 03-5286-1659

URL: <https://www.waseda.jp/library>

■発行 早稲田大学 広報室広報課◎
〒69-8050 東京都新宿区戸塚町1-104
Tel: 03-3202-5454 e-mail: koho@list.waseda.jp

■制作協力 産業編集センター
※CAMPUS NOWは年4回発行の予定で、次号は5月1日発行を予定しています。

「CAMPUS NOW」は WASEDA ONLINE でもご覧になれます。
■URL <http://www.yomuri.co.jp/adv/wol/>
小誌へのご意見、ご感想をお待ちしています。左記発行元まで、お寄せください。

大 限 の こ と ば

早稲田大学の創設者であり、
近代日本の設計者としてもさまざまな功績を残した大隈重信。
「進取の精神」「久遠の理想」——今なお受け継がれる大隈の、早稲田の精神を、
叡智と情熱にあふれる大隈自身のことばで、毎号ご紹介します。

元来人間は人に頼って生きるはずのものではない。

自分の道は自分で開いて行かねばならぬ。

他人に頼ろうと思えばこそ、

不運に遭う度に恨み言が述べたくなるのだ。

閉口垂れるのは自分の罪である。

劣敗者となるのは自分が弱いからである。

少しも他人や社会の罪ではない。

勇気を揮い反撥力を強め、堂々と活動せよ。

成功の要諦は其処にある。

—— 出典…『大隈重信演説談話集』早稲田大学編（岩波文庫）

（協力 早稲田大学史資料センター）



WASEDA University
早稲田大学